

人と防災未来センター 令和元年度事業評価

* 評価基準（4段階評価）

S : 大変評価できる

A : 評価できる

B : あまり評価できない

F : 評価できない

評価単位	評定	委員コメント
展示	S	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後はセンター外での展示・説明会の意義が高まるであろう。また、各種の巡回展の頻度も高くなる。そのための人的・財政上の制約を検討することが望まれる。 ・ 巡回展は来館の動機作りにもなり、今後は全国各地での開催が期待される。1回の展示期間は最低でも1週間程度が望ましい。 ・ 常設展のメンテナンスや更新の着実な実施、25周年を踏まえた各種のユニークな展示、県外への巡回・貸し出し事業の積極的な実施（7件）などを高く評価する。 ・ 新たな機能・役割の創造にも資する取組として震災25年の取組を高く評価。しかし、次年度は、新型などコロナ騒ぎの影響は必須である。対応を検討しておく必要がある。
資料収集・保存	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「河田文庫」の開設は有意義であり、これに倣ってセンターの趣旨に沿った資料を他の災害関係者から募ることも有意義であろう。 ・ 単に特別文庫の開設に終わらず、今後増加が予想される研究者からのまとまった資料提供に対応するためにも、将来にわたって有効に活用できる仕組みを作っておく必要がある。 ・ 資料の公開や、類似機関との連携の点も評価される。他の機関からの視察も多く、防災展示の範となっている。 ・ 特に個人が所有する一次資料は、今後、時間の経過とともに収集が次第に困難になると考えられ、計画的で効率的な資料の収集を期待。
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成／災害対応の現地支援・現地調査	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ この課題については、これまでも検討が重ねられてきたが、評価委員間においても評価が分かれる点があり、センターと評価委員との議論が噛み合わない点もあるので、次年度までに問題となる点を整理する必要がある。 ・ 個人のテーマによる研究と研究方針会議でのセンター全体としての研究方針との関係についての検討は有意義である。 ・ センターでの活動を基礎として2019年度に巣立ったのは2名であり、過去には平均して3名であるのと比較すると少しさびしい。

<p>災害対策専門職員の育成</p>	<p>S</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省の災害マネジメント総括支援員の養成支援を含む全国の自治体の首長や、中核的な人材の災害対応能力を向上するための、継続的な取組は高く評価される。 ・各地域に出前で行う首長などへのトップフォーラムの効果は非常に大きい。具体的な成果を全国自治体にもアピールし、今後とも実施する府県の掘り起しが望まれる。これらがセンターや職員にも良い意味でフィードバックしてくる。 ・この分野は当センターの売りであり、顔である。災害列島全体に広まることを願うが、実現には大きな課題もある。
<p>交流ネットワーク</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害メモリアルアクションでの語り継ぎ活動等は、震災の教訓を次世代に発信する貴重な取組として評価できる。 ・作り上げたネットワークが有事にも機能することが望まれる。 ・複数の25年事業が実施されたが、それらの最大公約数もしくは逆に最小公倍数的なものについてのセンターの見解が披歴されておれば、25年事業の意義が倍加したのではないか。